

# 第6学年1組 国語科学習指導案

日時

場所

指導者

1 単元名 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう

2 教材名 「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」  
【資料】「プログラミングで未来を創る」

## 3 単元設定の理由

(1) 児童観

省略

(2) 単元観

本単元は、小学校最後の説明文の学習である。児童がこれまでの学習を活用して複数の文章を重ねて読み、それぞれの筆者の主張を捉えた上で、これからの社会と生き方について自分なりに考えをまとめ、他者と交流することで考えを広げていく学習を行う。教材文『メディアと人間社会』は、人間のもつ欲求とメディアの発達との関わりについて、最初と最後の段落を呼応させる双括型の構成で、事例としてメディアの発達に関する事実を順序よく並べて筆者の論が展開される。また、もう一つの教材文である『大切な人と深くつながるために』は、具体例を示したり、問いかけたりしながら、コミュニケーションについて筆者の考えを繰り返し説明する形式で、筆者の論が展開される。内容としては、いずれの文章も筆者の主張が明確で、児童の日常生活と接点がある話題が取り上げられている。そのため、納得できる部分を考えたり、自分の知識や経験を想起したりしながら、情報化社会の中でどう生きていくべきかを考えるためのきっかけに適した教材と言える。

(3) 指導観

児童は、これまでの学習で、「筆者の主張とそれを支える事例」や、「筆者の考えと表現の工夫」に着目して読む経験をしてきている。

本単元は、3つの教材文で構成されている。いずれも「展開や構成の工夫、事例、表現の特徴などを捉える」→「自らの知識や経験などと比べながら考えを持たせ、文章にまとめる」といった流れで授業を進めていく。教材文の「展開や構成の工夫、事例、表現の特徴」などを捉える際には、ワークシートを活用し、文章の要旨や筆者の主張を簡潔に読み取らせる。「自らの知識や経験などと比べながら考えをもたせ、文章にまとめる」際には、文章の型を示し、毎時間同じ文章構成で書かせる。また、作文用紙を活用し、文字数を指定することで、推敲して説得力のある文章を書かせる。同じ授業の流れ、同じ文章構成で書かせることにより、児童に「わかる・できる」を実感させ、自分の考えを書く力を身につけさせたい。

また、自分の考えを書かせた後には、他者と伝え合う活動をする。他者の考えに耳を傾け、自分の考えとの違いに気付かせたり、他者の文章の良い点・改善点を伝え合ったりすることによって、児童のものの見方や考え方を広げ、「楽しく学び合い、伝え合い、高め合う授業」を目指し、児童の深い学びにつなげたい。

## 4 単元の目標

- (1) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)才)
- (2) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思C(1)力)
- (3) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するこ

とができる。(思C(1)ア)

- (4) 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。(知(1)カ)
- (5) 複数の文章を読んで自分の考えをまとめることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。(態)

## 5 単元の指導計画(9時間完了)

### (1) 第一次

- ① 学習活動への見通しをもつ。

教材文を読み、それぞれの筆者の主張について初発の感想を書き、交流する。(1時間)

### (2) 第二次

- ①-1 「メディアと人間社会」を読み、論の展開のしかたや表現のしかたを捉え、筆者の考えを読み取る。(1時間)

- ①-2 文章を読んで、自分の考えを文章にまとめる。書いた文章を共有し、自分の考えを広げる。(1時間)

- ②-1 「大切な人と深くつながるために」を読み、論の展開のしかたや表現のしかたを捉え、筆者の考えを読み取る。(1時間)

- ②-2 文章を読んで、自分の考えを文章にまとめる。書いた文章を共有し、自分の考えを広げる。(1時間)

- ③ 二つの文章から自分の考えを文章にまとめる。書いた文章を共有し、自分の考えを広げる。(1時間)

- ④ 「プログラミングで未来を創る」を読み、論の展開のしかたや表現のしかたを捉え、筆者の考えを読み取る。(1時間)

- ⑤ 三つの文章から自分の考えを文章にまとめる。書いた文章を共有し、自分の考えを広げる。(1時間【本時】)

### (3) 第三次

- ① まとめた文章を基に、グループで話し合う。また、話し合いを通しての感想を交流し、単元全体を振り返る。(1時間)

## 6 本時の指導

### (1) 目標

- ① 複数の文章を比較して考えたことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

【思考力・判断力・表現力】

- ② 友達の考えを聞き、良い点や改善点を伝えたり、自分の考えとの違いを感じたりしながら意見を交流している。

【主体的に学習に取り組む態度】

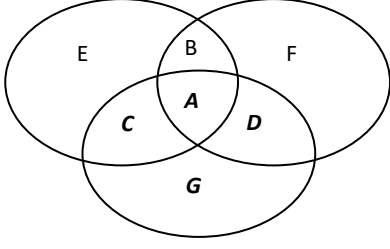
### (2) 準備・資料

教師：教科書、デジタル教科書

児童：教科書、ワークシート、全文プリント

(3) 指導過程

	学習活動	◇教師の指示・発問 ・予想される児童の姿	○指導上の留意点 ◎評価
導入  5分	1 プログラミングの重要性を強調した筆者の主張（前時）を振り返る。	◇資料「プログラミングで未来を創る」を読みましょう。 【発問例】 「今回の資料から、プログラミングについての考えを深めるのに参考になりそうな（引用できそうな）文章はどこですか。」 【予想される回答】 ・AIが人間の能力をこえ、多くの職業がなくなるかもしれない。 ・豊かな人生を送るには、知識が必要。 ・未来を創るのは自分自身。	○デジタル教科書の朗読に合わせて読ませる。 ○教材文の要旨はワークシートを使い、簡潔に確認する。
	2 本時の学習課題を把握する。	【発問例】 この時間は、今回の資料も含めて、三つの教材文を基に、「これからの社会でどう生きていくか」について考えを書き、その後交流をします。	○自分の考えは前時までの作文用紙、参考になりそうな（引用できそうな）文章は前時までのワークシートで確認する。
		◎三つの文章を基に、自分の考えを深めよう。	

<p>展開前半</p> <p>20分</p>	<p>3 三つの教材文から、自分の意見をまとめる。</p> <p><b>【初め】主張</b> 私は、これからの社会では〜〜〜と思う。</p> <p><b>【中】理由・根拠</b> (経験・引用など) なぜなら〜〜からである。 池上さんも「」</p> <p><b>【終わり】主張</b> これらのことから、〜〜〜していききたい。</p>	<p><b>【発問例】</b> 「これからの社会でどう生きていきたいか」について、さらに深く考え、書きましょう。」 (文章例 別紙1)</p> <p>A : 三つの文章を基に、自分の考えをまとめている。</p> <p>BCD : 二つの文章を基に、自分の考えをまとめている。</p> <p>EFG : 一つの文章を基に、自分の考えをまとめている。</p> <p>「メディアと人間」 「大切な人と深くつながるために」</p>  <p>「プログラミングで未来を創る」</p>	<p>○自分の意見をまとめやすくするために、文章の型を提示し、二つの教材文から自分の意見をまとめた時と同じ文章構成で書かせる。</p> <p>○文字数が視覚的に分かるように、また、文字数を制限し、推敲して文章を書けるように、作文用紙を活用する。</p> <p>○机間指導をし、児童のよい記述に丸をつけたり線を引いたりすることで、発表する意欲を高めるようにする。</p> <p>◎複数の文章を比較して考えたことに基づいて、自分の考えをまとめている。(ワークシート)</p> <p>○早く書き終わった児童は、もう一度文章を見直したり、練り直したりさせる。</p>
<p>展開後半</p> <p>15分</p>	<p>4 考えを共有する。</p> <p><b>対話のルール</b> ①相手の話を最後まで聞こう。 ②相手の文章の良い点・改善点を伝えよう。</p> <p><b>対話の条件</b> ①違う色の付箋を付けている人で行う。 ②5人以上で行う。</p>	<p>◇自分の考えを友達に伝えよう</p> <p>◇自分の文章を、友達に向けて発表してください。</p>	<p>○自分の書いた文章は A : 青 C : 黄 D : 緑 G : 赤</p> <p>のどこに当てはまるかを自己評価し、他の児童から分かるように、その色の付箋紙を名札に貼らせる。</p> <p>○対話のルール・対話の条件を示し、確認してから活動させる。</p> <p>◎友達の考えを聞き、良い点や改善点を伝えたり、自分の考えとの違いを感じたりしながら意見を交流している。(活動の様子)</p> <p>○考えに厚みや深まりをもたせることができるよう、全体交流の場では意図的に指名する。</p>

ま と め  5 分	5 本時を振り返る。	◇本時のまとめを書きましょう。	<p>○本時の学習で、</p> <p>①三つの文章を基に、自分の考えを書いてみて、新たに分かったこと、感じたこと</p> <p>②他者の意見を聞いて感じたこと</p> <p>を書くよう指示する。</p> <p>○時間があれば発表させる。</p>
---------------------------	------------	-----------------	--

(4) 評価とその方法

- ① 複数の文章を比較して考えたことに基づいて、自分の考えをまとめることができたか。  
 (ワークシート・発言) 【思考力・判断力・表現力】
- ② 友達の考えを聞き、良いところを伝えたり、自分の考えとの違いを感じたりしながら意見を交流することができたか。  
 (活動の様子) 【主体的に学習に取り組む態度】

(5) 板書計画

○文章の型

【初め】  
主張

【中】  
理由  
根拠(引用・経験)

【終わり】  
主張

○引用したい文章

- ・とが人間をこえる。
- ・多くの仕事が機械に変わる。
- ・未来を創るのは自分自身。

○三つの文章を基に、自分の考えを深めよう。

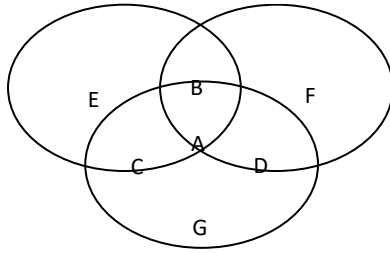
プログラミングで  
未来を創る  
石戸 奈々子

〈電子黒板〉

- ① 〈導入〉 デジタル教科書
- ② 〈展開前半〉 ペン図
- ③ 〈展開後半〉 対話のルール  
対話の条件

前時に児童に書かせたワークシート

「大切な人と深くつ  
ながるために」  
「メディアと人間」



「プログラミングで未来を創る」

## ※児童の文章例

### 【Aの領域例】三つの文章から

わたしは、これからの社会では、直接の人とのコミュニケーションを大切にしていきたい。

なぜなら、**鴻上さん**の「コミュニケーションの技術が上達すれば、大切な人と深くつながることができる」という考えに共感できたからだ。

**池上さん**や**石戸さん**の文章から、今後はさらにメディアやAIが進化し、人と直接コミュニケーションがますます減っていくことがわかった。わたし自身、SNSなどに頼りすぎて、人と直接会話することが減ってきているように感じる。

このことから、大切な人と深くつながるためにも、便利なメディアに頼りすぎず、人との直接のコミュニケーションをたいせつにしていきたい。

### 【Cの領域例】二つの文章から

わたしは、インターネットの発達に合わせ、間接的なコミュニケーションの技術も学んでいきたいと思った。

なぜなら、**池上さん**は「手軽に個人に関わる情報が伝えられるようになった。」と述べており、今後もますます手軽になると思うからだ。実際に自分もSNSなどで情報を発信することがある。

**また**、**石戸さん**は、「多くの仕事をAIが担っていく」と述べている。このことから、人との直接のコミュニケーションは、今後さらに減ることが考えられるからだ。

よって、わたしは今以上に間接的なコミュニケーションの技術も必要になると思うので、その技術も磨いていきたい。

### 【Dの領域例】二つの文章から

わたしは、自分の考えを相手にきちんと伝えて、コミュニケーションをとることを大切にしたい。

なぜなら、**鴻上さん**は、「相手と意見がぶつかることは当たり前であり、それを経て、コミュニケーションの技術が高まり、相手と深くつながることができる」と述べており、とても共感できたからである。

**しかし**、**石戸さん**は、「AIが人間をこえ、今後はますます人間の仕事が減っていく」と述べており、将来、人とコミュニケーションをとる機会が少なくなっていくことがわかった。

だからこそ、わたしは小学生の今のうちから、たとえ意見がぶつかったとしても、相手にきちんと自分の思いを伝え、コミュニケーションの技術を高めていくことを意識して過ごしたい。